

# 協働型コミュニティ・スクール



撮影場所 市立井田川小学校

地域と共にある学校づくりを目指して、学校と保護者、地域の皆さんが協働で取り組む仕組みの「コミュニティ・スクール」。今回、市内の小・中学校で整備されているコミュニティ・スクールについて紹介します。

コミュニティ・スクールは、法律に定められた学校の運営やその支援について協議する「学校運営協議会」が設置された学校のことを意味します。小・中学校では、学校を運営していく上で、さまざまな課題が生まれます。例えば、「子どもたちの学力を向上させるにはどうしたら良いのだろうか」、「子どもの安心安全のためには、どのような取り組みが必要か」などです。その対処や改善について、学校が一方的に考え、子どもたちに押し付けるのではなく、保護者や地域の皆さんが共に考え、知恵を出し合うことで、より良い課題解決につなげるのがコミュニティ・スクールです。

保護者や地域の皆さんの声で、より良い学校を目指します。

## 学校運営協議会とは

保護者の代表や地域住民などで構成される、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関です。次のような役割があります。

- 校長が作成する学校運営の基本方針の承認
- 学校運営について、校長などに意見する

## 鈴鹿のコミュニティ・スクールが 目指すもの…

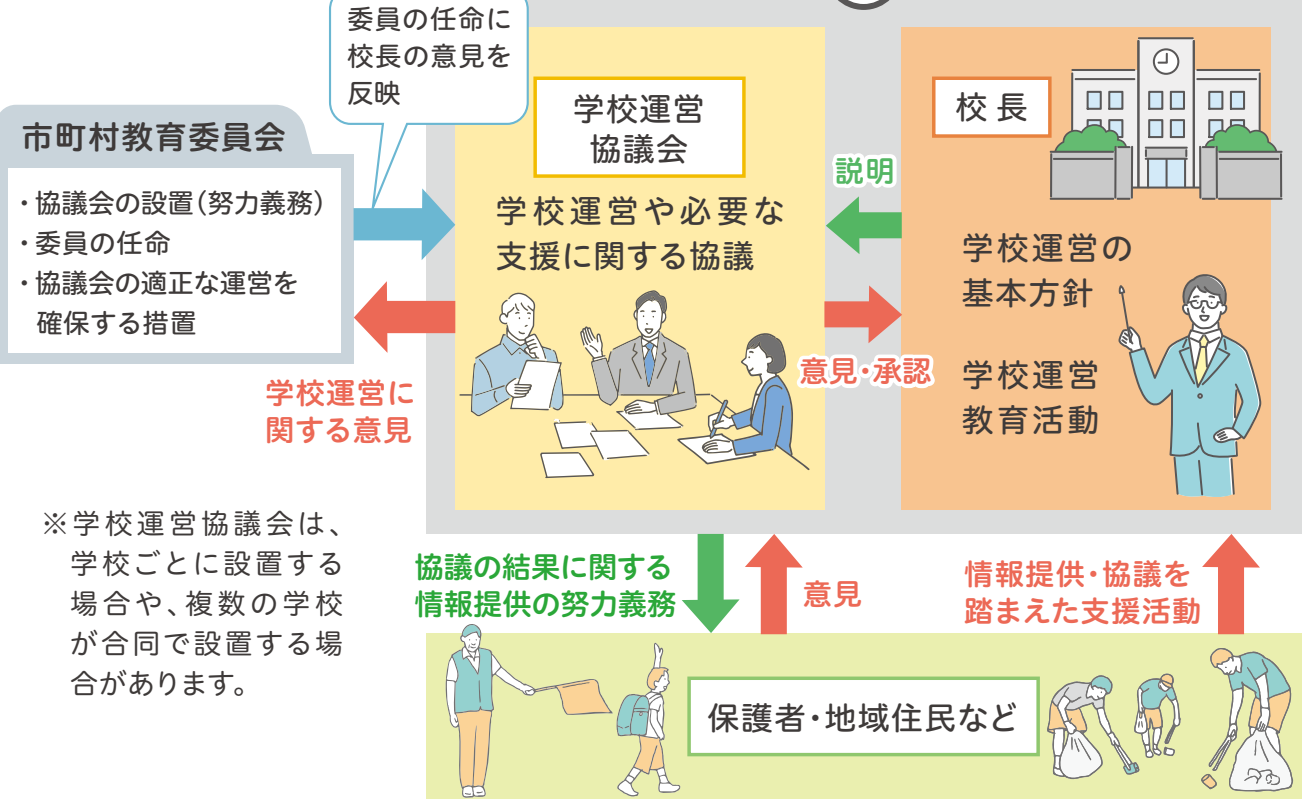
- ① 学校と地域とが双方向で連携を行いながら、子どもの教育の充実発展
- ② 市内のどの小・中学校でも、保護者や地域の声を反映させる開かれた学校づくり
- ③ 学校の実態や地域の特色など、その多様性を大切にした主体的な活動



教育支援課 職員

## コミュニティ・スクールの 仕組み

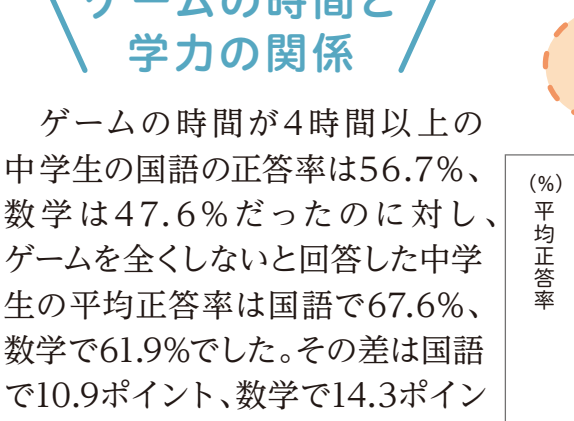
## コミュニティ・スクール



## 協働で取り組む教育課題

### 「子どものスクリーンタイム・家庭学習・読書」

教育現場では現在、「スクリーンタイム・家庭学習・読書」のあり方が課題となっています。これらの課題に対してコミュニティ・スクールでは、学校と地域が協働して取り組んでいます。



スクリーンタイムの増加

スクリーンタイム 適正化

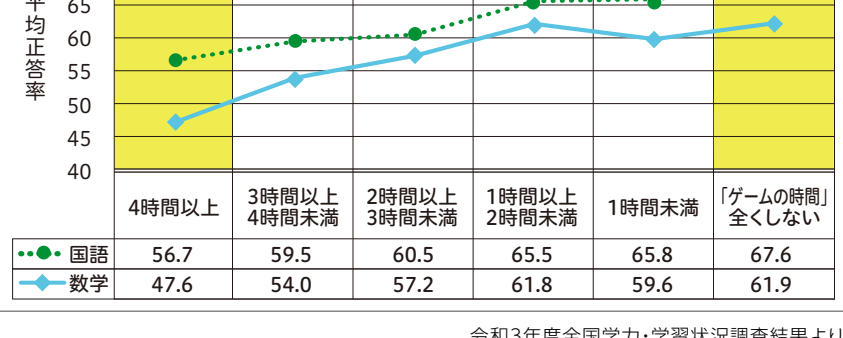
日常生活の中で、子どもたちがテレビやスマートフォン・パソコンなどのメディア機器に費やす時間は増加しており、気が付けば一日の大半をスマートフォンなどを見て過ごすこともあります。このようにメディア機器を使用する時間、いわゆる“スクリーンタイム”の増加が、問題視されています。

### ゲームの時間と 学力の関係

ゲームの時間が4時間以上の中学生の国語の正答率は56.7%、数学は47.6%だったのに対し、ゲームを全くしないと回答した中学生の平均正答率は国語で67.6%、数学で61.9%でした。その差は国語で10.9ポイント、数学で14.3ポイントもあり、この結果から、ゲームの時間が学力に影響していると考えられます。

スクリーンタイムが学力に影響している!

ゲームの時間と国語、数学の平均正答率(市立中学校3年生)



子どもがずっとスマホを見てます。

家庭で使用時間を決めてはどうか?



▲神戸中学校「学校運営協議会」の様子

### 学校運営協議会でも議題に!

スクリーンタイムの適正化は、多くの子どもの課題となっています。学校運営協議会では、どうすれば解決できるのか、正しいメディア機器との付き合い方とは何かについて活発に話し合われています。

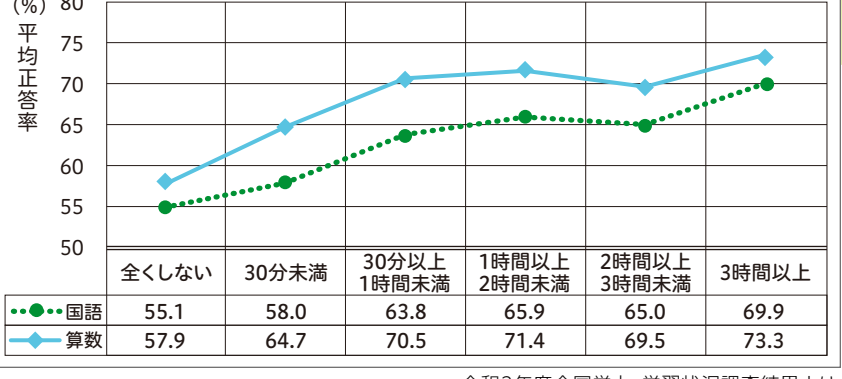


## 家庭学習の充実

### 家庭学習の重要性

家庭学習とは、宿題や自主学習のことで、学力向上のために大切です。ゲームの時間と同様に、家庭学習の時間と学力には相関関係があり、家庭学習が長いほど平均正答率が高い傾向にあります。

平日の家庭学習の時間と国語、算数の平均正答率(市立小学校6年生)



### 家庭学習支援

市内の小学校では、地域と協働で学習支援が行われています。国府小学校では、家庭学習を充実させるために、夏休み中の学校を利用して、地域の方や保護者などの学習支援ボランティアによる「夏の勉強会」が行われています。



▲国府小学校「夏の勉強会」の様子

### 読書の推進 「子どもの読書離れ」

読書活動は、子どもが言葉を学んだり、感性を磨いたりするために欠かすことのできないものです。読書量の多い児童は学力が高い傾向にあります。現在はさまざまな情報メディアの発達・普及や子どもの生活環境の変化などにより、子どもの「読書離れ」が指摘されています。



▲井田川小学校「図書ボランティア」の様子

### 図書ボランティア

子どもの読書充実に向けて、ボランティアによる図書館の整備や読み聞かせが行われています。井田川小学校では、週に1度、図書担当や学校図書館巡回指導員が連携しながら、季節感のあるものやキャラクターを使った飾り付けを行い、子どもたちが図書館へ足を運びたいくなるように工夫しています。

※学校図書館巡回指導員とは  
 学校図書館を活性化させ、子どもたちの読書活動や学習活動および図書館運営を支援するために、小・中学校を巡回指導する指導員。

スクリーンタイムによる学力や家庭学習への影響、読書離れは、教育現場において課題となっています。子どもが一日中スマートフォンやゲームなどのメディア機器を使用して、なかなか家庭学習が進まないという家庭も多いと思います。このような課題を解決するためには、学校・家庭・地域が力を合わせた“協働”が大切です。本市では、教育課題を共有・協議し、それぞれの立場で課題解決に向けて主体的に取り組む「協働型」のコミュニティ・スクールの実践を目指しています。



教育長 ひろた たかのぶ 廣田 隆延

今回の特集に関するご意見・ご感想は

教育支援課 ☎ 382-9055 ☎ 382-9053 ✉ kyoikushien@city.suzuka.lg.jp  
 教育指導課 ☎ 382-9028 ☎ 383-7878 ✉ kyoikushido@city.suzuka.lg.jp